

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 多摩市立多摩第一小学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例: 小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 206-0011

東京都関戸3丁目2番22号

E-mail daihyo-tama1-sho@city.tama.ed.jp

Website http://schit.net/tama/estamadaiichi/

幼児児童生徒数 男子 384名 女子 344名 合計 728名

幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、教育目標を「自ら考え行動できる子」として、学びのつながりに重点を置いたホールスクールアプローチの具現化により、教育課程全体で持続可能な社会の担い手を育てることを目指している。ESDの実践を通して、特に、未来像を予測して計画を立てる力、多面的・総合的に考える力、コミュニケーションを行う力、他者と協力する態度、つながりを尊重する態度などの育成を目標とした。

具体的には、生活科・総合的な学習の時間・特別活動を核とし、①エネルギー問題に係わる学習、②環境問題に係わる学習、③生物多様性に係わる学習を行った。

① エネルギー問題に係わる学習

第6学年「エネルギー～発電について考えよう～」では、環境をよりよくするために、エネルギー問題から自分たちの生活を見直し、エネルギーの使い方について考える学習を計画し実践した。学習のねらいは、日本のエネルギー事情を知り、その問題点を多角的に捉え、自ら課題を設定し、探究する態度と問

題解決を図る過程を通して、持続可能な社会づくりについて考えさせることである。便利な暮らし・資源の確保・環境保全の3点について、私事として向き合い考え、実際の生活でできることに取り組んだ。また、エネルギー問題について新たに考え続けていこうとする姿勢を育てることをゴールイメージとしてもち、学習を進めた。

② 環境問題に係わる学習

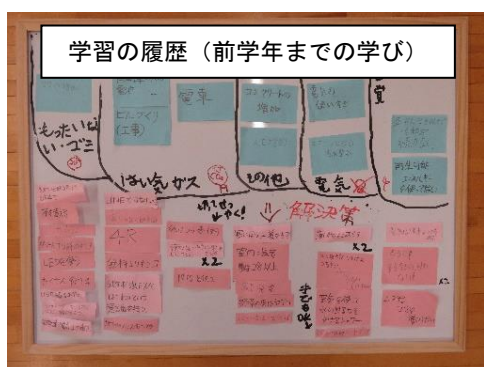
第5学年「見つめよう環境問題」では、児童に身に付けさせたい力を、事象と生活とのつながりを意識し最後までやり遂げる力、情報を収集して行動する力、仲間と協力して問題解決する力とした。

学習のねらいは、自分たちの行動が他国や未来の人々をはじめ、動植物など、すべての命とつながっていることや共存していくことの大切さを、ESDの視点から理解させ、小さな行動でも実践する力を育てることである。実際の学習では、地球温暖化の問題と向き合い、児童なりの課題を見つけ、問題解決に向けて自分たちにできることを考えて実践した。児童ならではのアイデアや工夫にあふれた明るく楽しいものがあり、環境を考えた行動を継続的に取り組み続けていこうとする態度が育った。

③ 生物多様性に係わる学習

第4学年「わたしたちの多摩川」では、身に付けさせたい力を、多摩川をより良くするために具体的に行動する力、自ら社会にかかわり参画しようとする態度とした。

持続可能な社会の創造を担う一員としての自覚を育むことをねらいとして、身近な多摩川の環境について調べる活動を通して、現状からより良い環境にしていくためにできることを考えさせ行動する学習を実践した。多摩川に何度も足を運び活動したことで、児童にとって多くの気づきがあり学びが深まった。



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

<ul style="list-style-type: none">●NASA による 2100 年の世界天気予想●地球教室 (朝日新聞)●最新環境教育授業テキスト●DVD「エネルギートラベラー～エネルギーの現状と課題を探る～」(電気事業連合会)●DVD 教材用資料「データで読み解くエネルギー」(電気事業連合会)●『今日に明日に未来につなげる「とうきょう環境」』(東京都環境局)●「かがやけ! みんなのエネルギー」(経済産業省資源エネルギー庁)●「日本のエネルギー 2014」(経済産業省資源エネルギー庁)

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

教育課程には、ESDの視点に立った学習指導を充実する中心的な場の一つに、総合的な学習の時間、生活科を位置付けている。また、特別活動はESDで目指す力や態度を育成する重要な領域の一つとして重視している。

校内研究では全学年が授業を公開して見合うとともに日常の授業の振り返りを通して、児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善、授業研究を行っている。

- ・ 思考の可視化 ・ 振り返りの場面の重視 ・ 活動の価値づけ
- ・ ファシリテーターとしての教師の役割の明確化
- ・ 学習履歴・教科等・SDGsとのつながりを学習指導案に明記

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

- ・ 職員全体で次期学習指導要領の理解
- ・ 各学年や各委員会等の取組の発信
- ・ 活動内容の把握と見直し
- ・ 専門家や協力者のリスト作成

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

教職員の評価は記述式にて毎学期末に行い、各分掌や運営委員会で検討した後、活動の見直しと改善を図っている。保護者・地域からの評価は年に1回アンケート方式（10項目）で行い、いただいた意見を参考に、教育活動に反映させている。ただ、評価項目に「ユネスコスクールとしての活動の質の向上」のための視点が抜けているため、次年度から保護者に分かりやすい表記に項目をおこす。

【成果】ESDの実践によって、児童が社会的事象を自分事として捉え課題を設定することで、主体的に学ぼうとする態度が身に付き、問題解決力が育っている。

【課題】学校の特色として、環境に関連することについての関心は高く多面的に考えているが、他の分野へも関心をもたせていきたい。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

・「エコプロ 2017」(12月)出展による児童の発信・交流
・「多摩エコ・フェスタ 2018」(1月)出展による児童の発信・交流
・「たまわんぱーく」で体験や交流を通じた学びの成果発表
調べたことをもとに伝え合う活動を通して、多様な表現方法が生まれた。また、来場者や地域の方との交流を通して、自身の学びが明確になり、価値づけられた。このことにより更に新たに追究したい課題ができるなど、主体的に学ぼうとする態度が育った。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

・ESDコンソーシアムによる授業改善に向けた指導助言
・多摩市水辺の楽校、学芸員、首都大学東京、国土交通省関東地方整備局による多摩川環境学習への支援
・多摩市農業委員、地域の農業従事者、多摩市グリーンボランティア森木会、東京農工大学による栽培活動、シバヤギ飼育活動への指導・助言
・ブラジル領事館、ブラジル人労働者支援センター等による授業協力
・多摩消防署、消防団による地域学習・防災学習への協力

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

本校を会場にして、多摩川の中流域である多摩市の「多摩市水辺の楽校」と多摩川の下流域である大田区の「うのき水辺の楽校」で交流を行った。児童の興味・関心の広がりに合わせて、多摩川を手がかりにしたりして、多摩川が流れる地域や多摩川の上流域や下流域の学校との交流を行っていききたい。
ブラジリアルモニア学園との交流を継続しているので、このネットワークを生かして、今後は国外のユネスコスクールとの交流を探っていきたい。

- ⑧ ユネスコス쿨の活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

児童の委員会活動のまとめで、児童にSDGsを提示したことにより、自分たちの活動がSDGsと重なるものやつながっていることに気付いた。そのことにより、世界が目指している目標は身近なところから取り組めることを実感し、活動をさらに工夫したり意識して取り組んだりするなど、意欲が高まった。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

- ・新学習指導要領の理解
- ・SDGsに関する職員向けの研修
- ・ESDカレンダーの見直しと改善
- ・ESDのホールスクールアプローチ具現化に向けた校務分掌組織の再構築
- ・本校の特色を生かした生活科・総合的な学習の時間のカリキュラムの再構築
- ・児童の主体的・対話的で深い学びをうながす教師の役割（ファシリテーター）の研究
- ・「平成30年度持続可能な社会づくりに向けた教育推進校」の研究推進
- ・各学年の授業研究
- ・研究発表会の開催
- ・活動内容をまとめたリーフレットの作成・配布